

かしわ

第75号 令和6年12月13日
ときわ会長岡東支部



Contents

●巻頭言 … 1 / ●私たちの学び・私たちの学びのアラカルト … 2-5 / ●オータムコンサート … 6 / ●東だるま会 … 7 / ●新入会員紹介・心のスマイルタイム・編集後記 … 8



タテとヨコで共に学びましょう

副支部長 内藤 貴志

立命館アジア太平洋大学、出口治明学長による興味深い文章を読みました。概要を紹介します。

物事を考える上で一番大切なことは、現状をしっかりと把握すること。それにはタテ（昔の人がどう考えたか）、ヨコ（世界の人がどう考えているか）を考えることが必要。このタテとヨコだけでも大部分の問題の正解が分かる。例えば夫婦別姓問題。タテで考えると源頼朝は北条政子と結婚し鎌倉幕府を開いた事実があり、この事実から日本の伝統は夫婦別姓だった。ヨコで見れば世界の先進37カ国で構成するOECD内で法律により夫婦同姓を強制する国は日本だけ。夫婦別姓になれば日本の伝統が消えるとか家族が崩壊するというのは単なる不勉強。（*1）

出口氏はタテとヨコを考えることで多くのことが理解できると述べています。この文章を読みながら、ときわ会のことを考えました。タテは本部や支部の活動、ヨコは年度の活動に当てはまると。教職員は、1日の大半を勤務校で過ごします。そのため学校外部の人と交わる機会は多くはありません。そんな中、ときわ会では、本部・支部活動で様々な年代の人と交わり、その人から直接学ぶことができます。とくに様々な教職経験を積んだ先輩から学ぶことはタテの学びと言えるでしょう。また、年度の活動では、全県各地で共に研鑽を積む仲間から学べます。まさにヨコの学びと言えるでしょう。200余名の会員を擁する長岡東支部はタテとヨコの人材が豊富な支部です。今後もタテとヨコのつながりを大切に、共に学んでいきましょう。

<参考引用>

（*1）出口治明APU学長が語る人生における人×本×旅の必要性
TRAVEL JOURNAL ONLINEホームページより